

平成 22 年 5 月 13 日

会社名 株式会社アールテック・ウエノ

問合せ先 ビジネスマネジメント部長 中村 宏司

電話番号 03-3596-8011

平成 22 年 3 月期通期の業績に関するお知らせ

当社は、本日平成 22 年 3 月期決算短信を発表しましたのでお知らせします。
当期における主な内容は以下の通りです。

【前期比較】

(単位：千円)

期間	売上高	売上総利益	研究開発費	営業利益	経常利益	当期利益
2008/4/1 ~ 2009/3/31 (前期 通期実績)	5,993,699	3,900,045	1,651,588	1,468,565	1,431,952	936,123
2009/4/1 ~ 2010/3/31 (当期 通期実績)	4,162,528	2,803,796	1,362,896	728,997	732,768	666,782
2009/4/1 ~ 2010/3/31 (通期計画)	4,184,024	-	1,412,685	675,070	664,057	603,539
増減 (対前年同期)	-1,831,171 -30.6%	-1,096,249 -28.1%	-288,692 -17.5%	-739,568 -50.4%	-699,184 -48.8%	-269,341 -28.8%
対計画達成率	99.5%	-	96.5%	108.0%	110.3%	110.5%

経営成績について

・当期 (2009 年 4~2010 年 3 月)の業績は、売上高 4,162 百万円 (前年同期比 5,993 百万円、30.6%減)、経常利益 732 百万円 (同 1,431 百万円、48.8%減)、純利益 666 百万円 (同 936 百万円、28.8%減) となりました。また、2009 年 8 月 13 日に発表した当期の業績予想の修正に関するお知らせに記載の通期計画に対する達成率はそれぞれ、売上高が 99.5%、営業利益が 108.0%、経常利益が 110.3%、純利益が 110.5%となっております。営業利益、経常利益、純利益とも当社計画を上回る結果となりました。

【四半期実績推移】

(単位：千円)

期間	売上高	売上総利益	研究開発費	営業利益	経常利益	当期利益
2008/10/1 ~ 12/31	1,322,326	829,343	417,152	215,001	137,900	110,951
2009/1/1 ~ 3/31	1,100,331	703,219	469,930	40,647	52,343	34,329
2009/4/1 ~ 6/30	1,036,825	738,399	334,883	231,057	229,643	328,372
2009/7/1 ~ 9/30	1,001,821	682,451	376,877	103,956	96,718	53,812
2009/10/1 ~ 12/31	902,427	600,281	331,272	86,797	93,163	59,949
2010/1/1 ~ 3/31	1,221,454	782,663	319,864	307,186	313,243	224,648
増減 (対前年四半期)	121,123 11.0%	79,444 11.3%	-150,066 -31.9%	266,539 655.7%	260,900 498.4%	190,319 554.4%
増減 (対直前四半期)	319,027 35.4%	182,382 30.4%	-11,408 -3.4%	220,389 253.9%	220,080 236.2%	164,699 274.7%

【事業別売上】

(単位：百万円)

	2009年3月期 前年同期	2010年3月期 通期計画	2010年3月期 当期実績	計画比 (達成率)
医薬品の製造販売	5,638	4,050	3,958	97.7%
レスキュラ®点眼液	3,098	2,684	2,636	98.2%
Amitiza®カプセル	2,525	1,366	1,322	96.8%
その他	14	-	-	-
医薬品の研究開発 支援サービス	355	132	203	153.8%
合 計	5,993	4,184	4,162	99.5%

財政状態について

・当期末の財政状態は、流動資産 5,371 百万円（前期末 5,201 百万円）、固定資産 1,672 百万円（同 2,641 百万円）、流動負債 741 百万円（同 763 百万円）、固定負債 143 百万円（同 869 百万円）、純資産 6,159 百万円（同 6,210 百万円）で、自己資本比率は 87.5%（同 79.2%）でした。

・当期末の現金および現金同等物は、3,196 百万円（前期末 2,387 百万円 808 百万円増）となっております。有利子負債については、第 2 四半期会計期間中に完済し、有利子負債はありません。

経営に関する最新情報（平成 22 年 1 月 1 日から現在まで）

・平成 22 年 2 月 12 日、当社は、平成 21 年 5 月 14 日公表の配当予想について修正することを決議いたしました。当社は経営基盤の強化のための内部留保に配慮しつつ、株主への適切な利益還元を重要な経営課題と位置付けております。業績や配当性向などを総合的に考慮し、中長期的に安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。この方針に基づき、業績目標に対する達成状況等を慎重に検討し、平成 22 年 3 月期配当を 1 株当たり 1,000 円と予想しておりましたが、1 株当たり 2,000 円に増配いたします。

・平成 22 年 2 月 22 日、当社は、日頃よりご支援いただいている株主様に対し、病気や健康についてのご理解を深めていただくとともに、医学の進歩や医療サービスの高度化による恩恵をすこしでも享受して頂くべく株主優待講演会を実施することを発表いたしました。

・平成 22 年 3 月 30 日、当社は、台湾・韓国におけるレスキュラ®点眼液の販売方法を変更することを発表しました。今回契約を締結した 2 社（東亜製薬株式会社、台湾アステラス製薬股份有限公司）との連携を強化することで、現在開発を進めている医薬品の共同開発や販売をアジア地域で行うための拠点になると考えております。

・平成 22 年 4 月 5 日、当社は、ラタノプロスト点眼液 0.005%の国内製造販売承認の申請を行ったことを発表しました。レスキュラ®点眼液 0.12%とは作用機序が異なるラタノプロスト点眼液 0.005%を当社の緑内障・高眼圧症治療薬としてラインナップすることにより、病態によるプロスタグランジン関連薬の使い分けが可能になります。選択肢が増えることにより、より多くの患者様の治療に貢献したいと考えております。また、今後海外市場においては、先発医薬品と比べてより工夫を加えた当社のラタノプロスト点眼液 0.005%の販売提携先を模索しながら製造販売承認の取得を目指してまいります。

・平成 22 年 4 月 28 日、当社は、液体充填カプセルによる医薬品、治験薬ならびに健康食品などの受託製造業務を開始することを発表しました。国内外を問わず、脂溶性・難溶性の薬剤の製剤化や治験薬等の製造サイトの選択に苦慮している医薬品企業や新たな商品開発をお考えの健康食品企業と連携することで、当社のビジネス展開の基盤を拡げることも可能になると考えております。

・平成 22 年 5 月 6 日、当社は、2009 年 12 月にレスキュラ®点眼液（イソプロピルウノプロストン点眼液）の製造について米国食品医薬品局（以下 FDA）による cGMP への適合性に関する審査を受け、当社の三田工場にて米国向けの点眼液を製造することについての認可を受けたことを発表しました。

本日、平成 22 年 3 月期決算短信について、経営陣を代表して当社代表取締役社長 真島行彦は、以下のコメントを発表しました。

「当社は本日、平成 22 年 3 月期決算短信を発表しました。利益についてはそれぞれ 8 月 13 日に発表した業績予想の修正における予想値を上回る結果となりました。コスト削減ほか新しい経営陣が取り組んできた諸施策が一定の成果をあげたものと考えております。

また、本日平成 23 年 3 月期の業績予想を発表いたしました。前期に比べ増収・増益を予想しております。前期はコスト削減を中心とした諸施策を実施した守りのステージでしたが、今期は攻めのステージと位置付け、業績予想を達成するために邁進してまいります。」

以 上